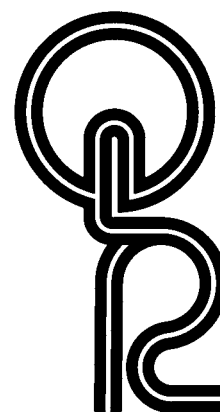


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 18 No.4, 2011



セール・ロンダーネ山地は、四国ほどの広さをもつ南極内陸の露岩である。第四紀の東南極氷床変動史を明らかにするため、第51次日本南極地域観測隊ではスノーモービルを用いて、この山地で約3ヶ月間の野外地形地質調査を行った。(撮影と解説：三浦英樹)

Vol. 18 No. 4

August 1, 2011

総会のお知らせ	2	日本学術振興会イベント	11
2011年大会案内	2	研究集会報告	11
編集委員会より	10	会員消息	12
学会賞・学術賞・論文賞・奨励賞	10	猿橋賞募集	12
功労賞	11		

◆日本第四紀学会総会のお知らせとお願い

8月27日(土)、鳴門教育大学にて2011年度総会が開催されます。会員各位のご出席をお願いします。やむを得ず欠席される場合には、委任状(とじ込みハガキまたはファックス、メール)を必ずご提出下さい。8月22日(月)必着でお願いします。

- とじ込みハガキでの委任状提出の場合は、お手数ですが切手を貼り、締切日までに到着するように早めに投函下さい。
- ファックスでの委任状提出の場合は、とじ込みハガキか下記の様式に必要事項を記入し、下記のFAX番号宛をお願いします。
FAX番号：03-5291-2176 日本第四紀学会事務局宛
- メールでの委任状提出の場合は、宛名を「2011年度総会議長」としたうえで、代理人氏名(「議長」でも可)、氏名、所属を明記し、daiyonki(at)shunkosha.com(学会事務局)へ送信して下さい。メールの題名は「第四紀学会メール委任状(2011総会)」として下さい。

総 会 委 任 状

2011年 月 日

日本第四紀学会 2011年度総会議長殿

私は議長(または 氏)を代理人と定め、日本第四紀学会2011年度総会におけるいっさいの議決権を委任します。

氏 名 () (署 名)
所 属 ()

◆日本第四紀学会 2011年大会案内(第4報)

1. 開催地および日程の概要

会場：鳴門教育大学(徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748) 講義棟ほか <http://www.naruto-u.ac.jp/>
日程：

- 8月26日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会
09:30-10:48 一般研究発表(オーラルセッションO-01～O-06)：講義棟B101 講義室
10:48-11:00 休憩
11:00-12:05 一般研究発表(口頭発表O-07～O-11)
12:05-13:00 昼食・休憩・幹事会
13:00-14:15 ポスターセッションコアタイム(1)：講義棟B102
14:15-16:25 一般研究発表(オーラルセッションO-12～O-21)：講義棟B101 講義室
16:25-16:40 休憩
16:40-17:32 一般研究発表(オーラルセッションO-22～O-25)：講義棟B101 講義室
ポスター掲示時間 11:00-17:32(講義棟B102)
18:00-20:00 評議員会：講義棟B104
- 8月27日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・表彰状授与式・懇親会
09:00-11:10 一般研究発表(オーラルセッションO-26～O-35)：講義棟B101 講義室
11:10-11:55 総会
11:55-12:00 休憩
12:00-12:30 表彰状授与式：講義棟B101 講義室
12:30-13:30 昼食・休憩
13:30-14:10 ポスターセッションコアタイム(2)：講義棟B102 講義室
14:10-16:07 一般研究発表(オーラルセッションO-36～O-44)：講義棟B101 講義室
16:07-16:20 休憩
16:20-17:38 一般研究発表(オーラルセッションO-45～O-50)：講義棟B101 講義室
ポスター掲示時間 9:30-17:38(17:50までに撤収：講義棟B102)
18:00-20:00 懇親会：鳴門教育大学・大学会館第1食堂(当日ご案内します)
- 8月28日(日) 公開シンポジウム(午前)「環太平洋の環境文明史」
普及講演会(午後)「徳島で考える地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」

公開シンポジウム「環太平洋の環境文明史」：講義棟 B101 講義室

- 09:30-09:35 ウェルカムスピーチ
- 09:35-09:40 会長挨拶
- 09:40-09:45 趣旨説明 (S-00)
- 09:45-10:45 講演 (S-01 ~ S-02)
- 10:45-11:00 休憩
- 11:00-12:00 講演 (S-03 ~ S-04)
- 12:00-13:00 昼食・休憩

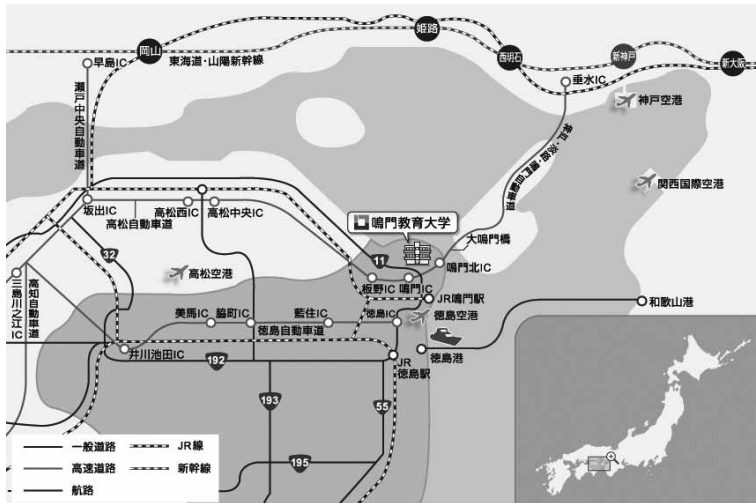
普及講演会「徳島で考える地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」：講義棟 B101 講義室

- 13:00-13:05 会長挨拶
- 13:05-13:10 趣旨説明
- 13:10-14:10 講演 2 件
- 14:10-14:20 休憩
- 14:20-15:20 講演 2 件
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:00 総合討論・質疑応答

8 月 29 日 (月) アウトリーチ巡検「100 万年の東四国を探る」

2. 会場案内

○鳴門教育大学へのアクセス



○会場周辺地図



鳴門教育大学ウェブサイトの交通アクセス情報 (<http://www.naruto-u.ac.jp/access.html>) とキャンパスマップ (<http://www.naruto-u.ac.jp/campusmap.html>) を参照下さい。

- 宿泊：鳴門市内にホテルがありますので、宿泊の予約は各自で行って下さい。徳島市内のホテルも利用可能です。この場合は、大学までバスがあります。時刻表等については徳島バスのウェブサイトをご覧ください (<http://www.tokubus.co.jp/>)。

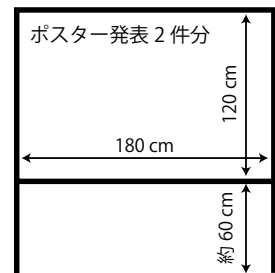
3. 口頭発表要領

- 会場には Windows (OS、Windows XP) パソコンに接続した液晶プロジェクターを用意します。Adobe Reader 9、Microsoft PowerPoint 2010、OpenOffice.org Impress を用いた発表が可能です。Mac で作成の方は、あらかじめ Windows パソコンで動作確認をお願いします。
- ファイル名に講演番号をつけたデータファイルを USB メモリー等 (ウイルスの感染のないもの) に入れ、会場の担当者までお持ち下さい。初日の午前中の方は、09:00 ~ 09:30 に、午後の方は 13:30 ~ 14:00 に、2 日目午前の方は 08:45 ~ 09:00 もしくは前日に、担当者までお持ち下さい。
- 上記以外のソフト、またはご自分のパソコンの使用を希望される場合には、ご自分のパソコンを持参して、接続して下さい。
- Mac 使用の方は、コネクタを持参下さい。
- OHP はありません。

4. ポスターセッションの発表要領

- ポスターは大会期間中の 8 月 26 日 11:00 ~ 17:32、8 月 27 日 09:30 ~ 17:38 まで掲示できます。会場は講義棟 B102 講義室です。

- ポスターセッションコアタイム：8月26日13:00～14:15、および8月27日13:30～14:10を説明時間帯に設定しています。
- ポスターセッションのショート・サマリー発表はありません。
- ポスターのボード面積は1題あたり、縦120cm（脚部込み高さ180cm）、横90cmです（右図参照）。画鋲やテープなどは会場で用意します。
- ポスターには発表番号・発表題名・発表者名をタイトルとして明記して下さい。発表番号はプログラムを参照して下さい。
- ポスター会場でコンピューターなどの使用や、画鋲等で掲示できない重量物等の展示を希望される方は、大会実行委員会事務局・齋藤（ksaitou(at)naruto-u.ac.jp）まで連絡して下さい。



5. 参加費・懇親会申し込み等

- 大会参加費として、会員・非会員を問わず2,000円を申し受けます。当日会場受付でお支払い下さい。ただし、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。
- 8月28日のシンポジウムは一般公開とし、会員・非会員を問わず参加費は無料です。
- 講演要旨集は、会場で直接販売します（予価2,000円）。大会終了後の入手方法は事務局へお問い合わせ下さい。（株）春恒社 学会事業部内 日本第四紀学会事務局
E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com Tel: 03-5291-6231, Fax: 03-5291-2176
- 懇親会：事前予約は終了しました。参加を希望される方は会場受付で申し込んで下さい。
日時：8月27日（土）18:00～（予定）
会場：鳴門教育大学・大学会館第1食堂
参加費：一般6,000円、学生2,500円
- 会期中の昼食：大学の食堂・売店は8月26日（金）のみ営業します。8月27日（土）・28日（日）は昼食の入手が大学内やその周辺では大変困難です。各自で弁当などを持参下さい。なお実行委員による昼食弁当の予約販売は受付終了しました。

6. 公開シンポジウム

- テーマ「環太平洋の環境文明史」
- 日時：2011年8月28日（日）09:30～12:00
- 場所：鳴門教育大学講義棟B101講義室
- 世話人：米延仁志（鳴門教育大）・山田和芳（鳴門教育大）
- 趣旨：環境考古学という研究分野が日本で開始されて約30年になります。この分野の主題は、自然史を精緻に復元し人類の活動と自然環境の相互作用を明らかにすることであり、第四紀学はその重要なバックボーンです。現在、文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）の支援により、環太平洋という広い地域で盛衰した古代文明を、環境変動という文脈で理解するための領域融合的なプロジェクトが進行しています。今回のシンポジウムでは、考古学・人類学・第四紀自然史の研究者による最新の成果を発表します。
- プログラム
09:30-09:35 ウェルカムスピーチ 田中雄三（鳴門教育大学学長）
09:35-09:40 会長挨拶 遠藤邦彦（日大・日本第四紀学会会長）
09:40-09:45 趣旨説明 米延仁志（鳴門教育大）
09:45-10:15 マヤ文明と環境変動 青山和夫（茨城大）
10:15-10:45 地球環境変動と考古学研究 マーク・ハドソン（西九州大）
10:45-11:00 休憩
11:00-11:30 琉球列島先史・原史文化と環境 高宮広土（札幌大）
11:30-12:00 環境考古学の未来 安田喜憲（日文研）
- 共催：鳴門教育大学

7. 普及講演会

- テーマ「徳島で考える地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」
- 日時：2011年8月28日（日）13:00～16:00
- 場所：鳴門教育大学講義棟B101講義室
世話人：西山賢一（徳島大）、中尾賢一（徳島県博）、山田和芳（鳴門教育大）
- 趣旨：2011年3月11日に発生した東北地方・太平洋沖地震では、関東・東北の沿岸域に大津波が襲来し、未曾有の大被害をもたらしました。東海・東南海・南海地震の三連動地震が懸念される西日本の太平洋側沿岸域においても、今回の大津波災害の被害の実態から学ぶとともに、津波対策を再検討することが必要です。この普及講演会では、太平洋沖地震の津波災害調査結果の速報とともに、東南海・南海地震による過去の津波堆積物に関する最新の研究結果と、徳島における津波防災対策の現状と課題、加えて

学校教育のなかに防災教育をどう取り込んで活用するかについての講演を行います。

○プログラム

- 13:00-13:05 会長挨拶 遠藤邦彦（日大・日本第四紀学会会長）
 13:05-13:10 趣旨説明 西山賢一（徳島大）
 13:10-13:40 3.11 東北地方太平洋沖地震による津波遡上域一下北半島尻屋崎から千葉県までの現地踏査一 原口 強（大阪市大）
 13:40-14:10 津波堆積物に記録された南海・東南海・東海三連動巨大地震のくり返し 岡村 眞（高知大）・松岡裕美（高知大）
 14:10-14:20 休憩
 14:20-14:50 徳島県の津波対策の現状と課題 中野 普（徳島大）
 14:50-15:20 学校教育における防災教育：「生きる力」の育成のために 植木岳雪（産総研）
 15:20-15:30 休憩
 15:30-16:00 総合討論・質疑応答

○共催：徳島大学環境防災研究センター、鳴門教育大学

特別協力：徳島県博物館

後援：NHK 徳島、徳島新聞社、四国放送、FM 徳島、エフエムびざん、徳島市教育委員会、鳴門市教育委員会、四国地質調査業協会

8. アウトリーチ巡検

○テーマ「100 万年の東四国を探る」

○日程：8月29日（月）日帰り

○案内者：中尾賢一（徳島県博）・西山賢一（徳島大）・長谷川修一（香川大）・植木岳雪（産総研）・竹村恵二（京都大）

○巡検の概要とスケジュール：移動にはすべて貸し切りバスを使用します。高松空港や徳島空港、高速バスなどで帰る方のために、解散はこれらの場所で分散して行います。

8:00 JR 鳴門駅出発

- ・父尾断層（中央構造線系活断層）の変動地形（遠望）
- ・100 万年前の火山灰層をはさむ土柱層（火山灰と花崗岩礫の観察）
- ・阿波の土柱（土柱火山灰の観察、土柱の成因と埋積）
- ・藍ランドうだつ（道の駅）で昼食
- ・美馬市中上の低角度断層（断層面と土柱層の観察）
- ・花崗岩と三豊層群の境界（不整合面と撓曲）
- ・結晶片岩礫を含む三豊層群（時間に余裕があれば実施）

15:30 頃 高松空港（第一次解散）

16:50 頃 徳島とくとくターミナル（第二次解散：関西方面等への高速バス対応）

17:00 頃 徳島空港（第三次解散）

17:30 頃 JR 鳴門駅で最終解散

天候および交通事情等により、若干の変更もあります。

○参加費：無料（保険加入料実費のみ、数百円程度）。

○昼食：弁当・飲み物などを持参下さい。道の駅の喫茶コーナーや周辺の飲食店を利用することも可能です。

○問い合わせ先：ksaitou(at)naruto-u.ac.jp 鳴門教育大学科研プロジェクト室 齋藤恵子

・受付後に個別に案内等を送付します。

・参加確認と保険代の徴収および資料の受け渡しは、会員の場合は学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。非会員の場合は、当日に行います。

9. 大会実行委員会および連絡先

実行委員会委員 米延仁志（実行委員長、鳴門教育大）・中尾賢一（徳島県博）・西山賢一（徳島大）・山田和芳（鳴門教育大）

（連絡先）実行委員会事務局 齋藤恵子 ksaitou(at)naruto-u.ac.jp

鳴門教育大学・科研プロジェクト室

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 Tel/Fax 088-687-6411（10時～16時）

10. プログラム詳細

●第1日 2011年8月26日（金）

口頭発表会場：講義棟 B101 講義室

ポスター会場：講義棟 B102 講義室

評議員会会場：講義棟 B104 講義室

口頭発表（連名の場合は筆頭者が発表）

<現代・災害> 座長：藤原 治（産総研）

0-01 09:30-09:43 平成23年4月11日福島県浜通りの地震による地盤変状とSAR干渉画像との関連
……………小荒井 衛（地理院）・岡谷隆基（地理院）・小林知勝（地理院）・飛田幹男（地理院）・脇坂安彦（土木研）・佐々木靖人（土木研）・阿南修司（土木研）

0-02 09:43-09:56 福島大学の雨水採水器のフィルターに付着した風成塵の同定と付着量の経年変化
……………長橋良隆（福島大）・山内ひかり（アルテマイスター）・渡邊 明（福島大）

0-03 09:56-10:09 インド洋大津波で消失した砂嘴の再生過程—タイ南西Pakarang岬の事例—
……………小岩直人（弘前大）・杉澤修平（日本郵便）・葛西未央（弘前大）・松本秀明（東北学院大）

<歴史時代・完新世（1）> 座長：井上麻夕里（東京大）

0-04 10:09-10:22 樹木年輪中の高時間分解能放射性炭素（ ^{14}C ）を用いた完新世後期（～AD300年）の太陽活動復元……………横山祐典（東京大）・宮原ひろ子（東京大）・安岡 亮（東京大）・坂下 渉（東京大）・山口保彦（東京大）・Stewart Fallon（オーストラリア国立大）

0-05 10:22-10:35 喜界島サンゴ骨格を用いた過去432年間の海洋環境復元……………川久保友太（東京大）・横山祐典（東京大）・鈴木 淳（産総研）・Chantal Alibert（オーストラリア国立大）・Stephen Eggins（オーストラリア国立大）

0-06 10:35-10:48 男鹿半島、一の目潟マール堆積物の湖沼年縞と過去100年間の自然災害・人間活動史……………山田和芳（鳴門教育大）・米延仁志（鳴門教育大）・小田寛貴（名古屋大）・齋藤めぐみ（科博）・五反田克也（千葉商科大）・原口 強（大阪市大）・安田喜憲（日文研）

10:48-11:00 休憩

<歴史時代・完新世（2）> 座長：紀藤典夫（北教大函館）

0-07 11:00-11:13 アジアの大河川とデルタにおける人間活動の影響……………斎藤文紀（産総研）

0-08 11:13-11:26 マヤ文明・アンデス文明の盛衰に関わる農耕と植生変化の影響……………那須浩郎（総研大）

0-09 11:26-11:39 江戸期の古地図を利用した北海道の火山の噴煙史……………及川輝樹（産総研）

0-10 11:39-11:52 瀟湘湖における小氷期以降の古環境変化……………瀬戸浩二（島根大）・高田裕行（釜山大）・香月興太（KIGAM）・園田 武（東京農大）・渡部貴聴（網走市水産港湾部）

0-11 11:52-12:05 東北日本の古気候データからみた完新世の東アジアモンスーンの活動性……………吉田明弘（東北大）・米延仁志（鳴門教育大）・守田益宗（岡山理科大）・竹内貞子（柳町自然研究所）・篠塚良嗣（北海道大）・山田和芳（鳴門教育大）・五反田克也（千葉商科大）・安田喜憲（日文研）

12:05-13:00 昼食・休憩／幹事会

13:00-14:15 ポスターセッション コアタイム（会場：講義棟 B102）

<歴史時代・完新世（3）> 座長：植木岳雪（産総研）

0-12 14:15-14:28 縄文中期の環境復元と三内丸山遺跡の人々……………川幡穂高（東京大）・山本尚史（東北大）・横山祐典（東京大）・木元克典（JAMSTEC）・蓑島佳代（産総研）

0-13 14:28-14:41 大宮大地北西部、北本市デーノタメ遺跡の縄文中期の古植生……………楡井 尊（埼玉自然博）

0-14 14:41-14:54 サロベツ原野稚咲内海岸砂丘列の植生形成史……………中畑研哉（北教大函館）・紀藤典夫（北教大函館）

0-15 14:54-15:07 北海道における完新世中・後期の植生変遷……………坂口友美（北教大函館）・紀藤典夫（北教大函館）

0-16 15:07-15:20 日本におけるユスリカ化石分析の予察的研究……………紀藤典夫（北教大函館）・都鳥祐斗・成田匡克・宮田昭平

<歴史時代・完新世（4）> 座長：片岡香子（新潟大）

0-17 15:20-15:33 出雲平野における完新世の古環境変遷と有機炭素埋積速度……………岡崎裕子（島根大）・瀬戸浩二（島根大）・山田和芳（鳴門教育大）

0-18 15:33-15:46 カザフスタン、イリ川デルタとバルハシ湖周辺の砂丘地形発達史……………佐藤明夫（東京大）・近藤玲介（産総研）・須貝俊彦（東京大）・清水 整（東京大）・遠藤邦彦（日大）

0-19 15:46-15:59 中央アジア、バルハシ湖堆積物の元素組成からみた完新世の気候変化……………須貝俊彦（東京大）・遠藤邦彦（日大）・原口 強（大阪市大）・近藤玲介（産総研）・門谷弘基（東京大）・千葉 崇（東京大）・清水 整（東京大）・佐藤明夫（東京大）・窪田順平（地球研）

0-20 15:59-16:12 東南極・高塩分塩湖すりばち池の完新世後期における蒸発・濃縮過程……………中島広海（島根大）・瀬戸浩二（島根大）・香月興太（KIGAM）・金子 亮（東京大）・山田和芳（鳴門教育大）・伊村 智（極地研）

0-21 16:12-16:25 紀伊半島中部、宮川上流域における山体崩壊の発生時期と発生頻度：せき止め湖堆積物を用いて……………植木岳雪（産総研）・永田秀尚（風水土）・小嶋 智（岐阜大）・沼本晋也（三重大）・飯島文男（飯島地質調査）

16:25-16:40 休憩

<歴史時代・完新世 (5)> 座長：齋藤めぐみ (科博)

0-22 16:40-16:53 横浜南部、平潟湾の完新世における相対的海面変動……………松島義章 (生命の星地球博)

0-23 16:53-17:06 ボーリングコアの解析から復元した静岡県伊東低地の 8500-4000 cal BP の相対的海水準変動……………藤原 治 (産総研)・入月俊明 (兵庫教育大)・大林 巖 (兵庫教育大)・平川一臣 (北海道大)・長谷川四郎 (熊本大)・内田淳一 (JNES)・阿部恒平 (応用地質)

0-24 17:06-17:19 モルディブ諸島北マーレ環礁における後氷期の礁形成史……………菅 浩伸 (岡山大)・横山祐典 (東京大)・鈴木 淳 (産総研)・中島洋典 (有明高専)・マホムド・リヤズ (アジア工科大)

0-25 17:19-17:32 酸素同位体ステージ 3 以降の東南極氷床変動に関する考察……………奥野淳一 (極地研)・三浦英樹 (極地研)

18:00-20:00 評議員会 (会場：講義棟 B104 講義室)

●第2日 2011年8月27日 (土)

口頭発表、総会、表彰状授与式会場：講義棟 B101 講義室

ポスター会場：講義棟 B102 講義室

口頭発表

<後期更新世 (1)> 座長：工藤 崇 (産総研)

0-26 09:00-09:13 石器時代における神津島産黒曜石製遺物の原産地—消費地の関係からみた環境適応……………杉原重夫 (明治大)

0-27 09:13-09:26 十和田八戸イグニブルライト再堆積物にみられる侵食構造と堆積過程の特徴……………鎌田耕太郎 (弘前大)・成田 盛 (東北東中学校)

0-28 09:26-09:39 海水準変動や気候変動とは無関係な扇状地と段丘の形成……………片岡香子 (新潟大)

<後期更新世 (2)> 座長：菅 浩伸 (岡山大)

0-29 09:39-09:52 日本海、上越沖コア MD10-3312 コアの TOC 変動に記録された D-O イベントとその意味……………公文富士夫 (信州大)・栗山学人 (名古屋大)・松本 良 (東京大)

0-30 09:12-10:05 日本海の最終氷期最盛期の表層水の海洋レザバー……………池原 研 (産総研)・板木拓也 (産総研)・片山 肇 (産総研)・宇佐見和子 (産総研)・長橋良隆 (福島大)

0-31 10:05-10:18 沖縄石垣島と宮古島の第四紀後期哺乳動物相の比較……………河村善也 (愛知教育大)・河村 愛 (大阪市大)・中川良平 (三重県立博)

<後期更新世 (3)> 座長：瀬戸浩二 (島根大)

0-32 10:18-10:31 宇都宮市中里における最終氷期最寒冷期の植物化石群……………西内李佳 (日大)・百原 新 (千葉大)・遠藤邦彦 (日大)・大里重人 (土質リサーチ)・中村洋一 (宇都宮大)・喜内敏夫 (芙蓉地質)

0-33 10:31-10:44 北西部北太平洋及びオホーツク海における最終氷期最寒期及び融氷期の表層水温変動……………原田尚美 (JAMSTEC)・関 宰 (北海道大)・木元克典 (JAMSTEC)・岡崎裕典 (JAMSTEC)・長島佳菜 (JAMSTEC)・井尻 暁 (JAMSTEC)・中塚 武 (名古屋大)

0-34 10:44-10:57 化石サンゴ骨格を用いた最終融氷期における南太平洋東部の環境復元……………井上麻夕里 (東京大)・横山祐典 (東京大)・川幡穂高 (東京大)・谷水雅治 (JAMSTEC)・鈴木 淳 (産総研)

0-35 10:57-11:10 福井県水月湖における最終氷期後半のプランクトン生態系の変化……………齋藤めぐみ (科博)・林 辰弥 (科博)・中川 毅 (ニューカッスル大)

11:10-11:55 総会 (会場：講義棟 B101 講義室)

11:55-12:00 休憩

12:00-12:30 表彰状授与式 (会場：講義棟 B101 講義室)

12:30-13:30 昼食・休憩

13:30-14:10 ポスターセッション コアタイム (会場：講義棟 B102 講義室)

<後期更新世 (4)> 座長：原田尚美 (JAMSTEC)

0-36 14:10-14:23 EPICA Dome C ダスト記録にみられる氷期—間氷期サイクルとスパイクについて……………坂田晴香 (三重大)・福山 薫 (三重大)

0-37 14:23-14:36 ドームふじ氷床コアの O₂/N₂ 年代から見た間氷期のタイミングと長さ……………川村賢二 (極地研)・青木周司 (東北大)・中澤高清 (東北大)・阿部彩子 (東京大)・齋藤冬樹 (JAMSTEC)

0-38 14:36-14:49 古カトマンズ湖の微粒炭、海綿骨針、植物珪酸体の分析に基づく過去 70 万年のインドモンスーンと堆積環境の変遷史……………杉本美沙 (京都大)・藤井理恵 (京都大)・酒井治孝 (京都大)

<後期更新世 (5)> 座長：近藤玲介 (産総研)

0-39 14:49-15:02 第四紀後期における南大洋インド洋セクター 65° S から採取された海洋コアの古環境解析……………村山雅史 (高知大)・多賀順一 (高知大)・山本裕二 (高知大)・加藤義久 (東海大)

0-40 15:02-15:15 十和田火山における噴火活動様式の時代変遷と長期的予測……………工藤 崇 (産総研)・小林 淳 (ダイヤコンサルタント)・山元孝広 (産総研)・岡島靖司 (リサイクル燃料貯蔵)・水上啓治 (リサイクル燃料貯蔵)

- O-41 15:15-15:28 中国山地西部、徳佐盆地およびその周辺部における段丘地形と地殻変動……山内一彦(岩国高校)・白石健一郎(防府高校)
 <中期~前期更新世> 座長:加藤茂弘(兵庫県立人と自然博)
- O-42 15:28-15:41 下北半島東部の砂子又層上部に挟在する広域テフラの発見……田村糸子(首都大)・山崎晴雄(首都大)・小林 淳(ダイヤコンサルタント)・須藤浩一(阪神コンサルタンツ)・岡島靖司(リサイクル燃料貯蔵)・水上啓治(リサイクル燃料貯蔵)
- O-43 15:41-15:54 フィッション・トラック年代に基づく北海道白滝地域の火山活動史……長井雅史(防災科研)・金成太郎(明治大)・弦巻賢介(明治大)・柴田 徹(考古石材研究所)・杉原重夫(明治大)
- O-44 15:54-16:07 奈良盆地西部における大阪層群 Ma2 層の前期更新世植物化石群……北場育子(神戸大)・百原 新(千葉大)・松下まり子(人と森の研究室)
- 16:07-16:20 休憩
 <年代測定・分析技術の進展(1)> 座長:村山雅史(高知大)
- O-45 16:20-16:33 テフラ編年学が結ぶもの:環太平洋での研究例から……奥野 充(福岡大)
- O-46 16:33-16:46 日本産樹木を用いた過去約 2000 年間の標準年輪曲線ネットワーク構築……星野安治(東北大)・米延仁志(鳴門教育大)・大山幹成(東北大)・小田寛貴(名古屋大)
- O-47 16:46-16:59 北海道周辺海域の ^{14}C ローカル海洋リザーバー効果の補正法……宮入陽介(東京大)・横山祐典(東京大)・松崎浩之(東京大)
 <年代測定・分析技術の進展(2)> 座長:高田将志(奈良女子大)
- O-48 16:59-17:12 石英中の酸素空孔量と結晶化度の測定方法の確立:堆積物起源地推定への応用……豊田 新(岡山理科大)
- O-49 17:12-17:25 浜堤の OSL 年代による三角州海岸変化の高分解能復元……田村 亨(産総研)・斎藤文紀(産総研)・松本 弾(産総研)・Nguyen Van Lap(ベトナム科学アカデミー)・Ta Thi Kim Oanh(ベトナム科学アカデミー)・Le Minh Dao(ベトナム科学アカデミー)・Mark D. Bateman(シェフィールド大)・山下翔大(千葉大)
- O-50 17:25-17:38 宇宙線生成核種 ^{10}Be ・ ^{26}Al の深度プロファイルを用いた湿潤地域の侵食速度の定量……中村淳路(東京大)・横山祐典(東京大)・宮入陽介(東京大)・城谷和代(産総研)・松崎浩之(東京大)・鈴木 淳(産総研)

ポスター発表(会場:講義棟 B102 講義室)

コアタイム

8月26日(金) 13:00-14:15

8月27日(土) 13:30-14:10

<現代・災害>

- P-01 宮城県亘理平野 1 垂直断面上の東北地方太平洋沖地震津波堆積物……木庭元晴(関西大)・古池鋼(海岸研究室)・小西雅人(関西大)・天本泰晶(関西大)
- P-02 2011 年東北地方太平洋沖地震津波による打ち上げ貝類の調査……藤原 治(産総研)・谷川晃一郎(産総研)・佐藤慎一(東北大)
- P-03 青森県大須賀海岸における 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波による海浜環境の変化……鎌田耕太郎(弘前大)
- P-04 細粒タービダイトの堆積過程と海底地形の制約……池原 研(産総研)・宇佐見和子(産総研)・芦寿一郎(東京大)・入野智久(北海道大)・加三千宣(愛媛大)
- P-05 琵琶湖湖底堆積物の砂層から検討する洪水イベント履歴……里口保文(琵琶湖博)・芳賀裕樹(琵琶湖博)
- P-06 霧島火山新燃岳 2011 年噴火火山灰の構成粒子とその時系列変化……大石雅之(産総研)・下司信夫(産総研)・及川輝樹(産総研)・西来邦章(産総研)・古川竜太(産総研)・中野 俊(産総研)・東宮昭彦(産総研)・篠原宏志(産総研)
- <歴史時代・完新世>
- P-07 湯ノ湖の珪藻種組成変化からみた浚渫による環境変化……岩本直哉(愛媛県総合科博)・井内美郎(早稲田大)
- P-08 和歌山平野における過去約 1 万年の貝形虫群集分析……井関岳人(大阪市大)
- P-09 昆虫化石からみた愛知県一色青海遺跡の古環境およびその年代値……奥野絵美(愛知県埋文センター)・森 勇一(金城学院大)
- P-10 奈良県曽爾高原の黒ボク土に含まれる微粒炭の表面形態による母材植生の分類……奥中亮太(大阪市大)・井上 淳(大阪市大)
- P-11 カリブ海の堆積物試料を用いた中期-後期完新世環境変動復元……横山祐典(東京大)・Jose Ignacio Martinez(Universidad EAFIT)・宮入陽介(東京大)
- P-12 荒川・妻沼低地と中川低地の沖積層およびその基底地形の対比……石原武志(東京大)・須貝俊彦(東京大)・八戸昭一(埼玉県環境科学国際センター)

<後期更新世>

- P-13 カザフスタン、バルハシ湖東部の陸域における各種堆積物の OSL 年代測定……近藤玲介（産総研）・須貝俊彦（東京大）・遠藤邦彦（日大）・塚本すみ子（Leibnitz Institute）・坂本竜彦（JAMSTEC）
- P-14 天皇海山列北部から採取された海洋コアに介在する 3 枚のテフラ層とその年代……米津直人（高知大）・村山雅史（高知大）・松崎琢也（高知大）・成田尚史（東海大）
- P-15 九州地方における約 3 万年前前後の埋没腐植土壌について……井上 弦（九州大）
- P-16 武蔵野台地立川ローム層の古環境一層序・土壌形成・植生変遷……田中義文（パリノ・サーヴェイ）・馬場健司（パリノ・サーヴェイ）・矢作健二（パリノ・サーヴェイ）・橋本真紀夫（パリノ・サーヴェイ）・齋藤紀行（パリノ・サーヴェイ）・芝口 怜（パリノ・サーヴェイ）・高野和弘（杉並区遺跡調査団）・宮下数史（杉並区遺跡調査団）
- P-17 武蔵野台地の立川ローム層の対比における重鉍物組成と火山ガラス比の有効性……矢作健二（パリノ・サーヴェイ）・橋本真紀夫（パリノ・サーヴェイ）・齋藤紀行（パリノ・サーヴェイ）・芝口 怜（パリノ・サーヴェイ）・高野和弘（杉並区遺跡調査団）・宮下数史（杉並区遺跡調査団）

<中期～前期更新世>

- P-18 兵庫県水上盆地における中期更新世以降の埋積過程と加古川一由良川間の河川争奪……加藤茂弘（兵庫県立人と自然博）・古谷 裕（兵庫県立大）
- P-19 八甲田カルデラ起源火砕流堆積物の層序の再検討……工藤 崇（産総研）・檀原 徹（京都フィッシュン・トラック）・山下 透（京都フィッシュン・トラック）・植木岳雪（産総研）・佐藤大介（産総研）
- P-20 高原火山における火山活動ステージの再検討とそれに基づくマグマ供給系の変遷……弦巻賢介（明治大）
- P-21 東京都世田谷区で掘削されたボーリングコア CRE-NUCHS-1 の堆積相と堆積物物性……船引彩子（日大）・千葉 崇（東京大）・納谷友規（産総研）・植木岳雪（産総研）・竹村貴人（日大）

<年代測定・分析技術の進展>

- P-22 湖沼年縞の年輪年代学的研究の試み～長野県深見池を例に～……山田和芳（鳴門教育大）・米延仁志（鳴門教育大）・星野安治（東北大）・大山幹成（東北大）・小田寛貴（名古屋大）・北川淳子（日文研）・安田喜憲（日文研）・齋藤めぐみ（科博）
- P-23 放射性炭素（ ^{14}C ）年代をどのように報告するか？……奥野 充（福岡大）・中村俊夫（名古屋大）及川輝樹（産総研）・荻谷愛彦（専修大）
- P-24 灌漑用水の溶存無機炭酸の ^{14}C 濃度－農産物は灌漑用水の ^{14}C 濃度に影響されるか……中村俊夫（名古屋大）・太田友子（名古屋大）
- P-25 東京大学大気海洋研究所 Laser Ablation Inductively Coupled Plasma Mass Spectrometry システムの紹介～地球科学試料の局所非破壊微量元素分析に向けて～……川久保友太（東京大）・横山祐典（東京大）・Christelle Not（東京大）・宮入陽介（東京大）・井上麻夕里（東京大）・川幡穂高（東京大）

●第 3 日 2011 年 8 月 28 日（日）

公開シンポジウム、普及講演会：講義棟 B101 講義室

公開シンポジウム「環太平洋の環境文明史」

- 09:30-09:35 ウェルカムスピーチ……田中雄三（鳴門教育大学学長）
- 09:35-09:40 会長挨拶……遠藤邦彦（日大・日本第四紀学会会長）
- S-00 09:40-09:45 趣旨説明……米延仁志（鳴門教育大）
- S-01 09:45-10:15 マヤ文明と環境変動……青山和夫（茨城大）
- S-02 10:15-10:45 地球環境変動と考古学研究……マーク・ハドソン（西九州大）
- 10:45-11:00 休憩
- S-03 11:00-11:30 琉球列島先史・原史文化と環境……高宮広土（札幌大）
- S-04 11:30-12:00 環境考古学の未来……安田喜憲（日文研）
- 普及講演会「徳島で考える地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」
- 13:00-13:05 会長挨拶……遠藤邦彦（日大・日本第四紀学会会長）
- 13:00-13:05 趣旨説明……西山賢一（徳島大）
- 13:10-13:40 3.11 東北地方太平洋沖地震による津波遡上域～下北半島尻屋崎から千葉県までの現地踏査～……原口 強（大阪市大）
- 13:40-14:10 津波堆積物に記録された南海・東南海・東海三連動巨大地震のくり返し……岡村 眞（高知大）・松岡裕美（高知大）
- 14:10-14:20 休憩
- 14:20-14:50 徳島県の津波対策の現状と課題……中野 普（徳島大）
- 14:50-15:20 学校教育における防災教育：「生きる力」の育成のために……植木岳雪（産総研）
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:00 総合討論・質疑応答

◆徳島大会における講演プログラムの編成方針と講演者へのお願い

日本第四紀学会は、創設以来、どの大会やシンポジウムであっても可能な限り 1 会場のみで討議するという方式を貫いてきました。この大会運営方式は、研究分野や研究方法が異なる研究者が互いに接触して協同で新たな発見を導くという多元的かつ学際的な「第四紀研究」の本質に基づいたものです。

徳島大会における講演プログラムは、この考え方にに基づき、講演を専門分野別にまとめて配置するのではなく、異なる分野の研究者が互いに接触できるように、専門分野の枠を離れて、対象とする時代ごとに配列しました。特定の時代を対象としない年代測定方法や新たな分析技術に関する講演は最後にまとめてあります。このようなプログラムの配列によって、異なる分野間の思いがけない繋がりや新たな関係性の発見に気づかされることを期待します。

また、学際性を目指した活発な議論が積極的に行われるように、講演者の皆様には、講演やポスターの冒頭で、短い時間で結構ですので、「ご自分の講演内容と他の分野との関わり」や「学際的な学問である第四紀学的な観点からのご自分の研究の意義」についても簡単に触れていただくようお願いいたします。このことによって、異なる分野からも多くの質問や意見が出され、議論が活発化することを願っています。徳島大会における上記のプログラム編成方法についてのご意見がありましたら、学会事務局まで連絡下さい。大会における質疑応答、議論の活性化に対して、学会員の皆様の積極的なご協力をよろしくお願いいたします。(日本第四紀学会幹事会)

◆編集委員会ブースにお立ち寄りください

徳島大会では例年同様編集委員会ブースを開設します。ブースでは、第四紀研究への投稿から受理に至るまでの編集の流れと、読者に分かりやすい図や表の作成に関する注意点などについてポスターを用いて示します。編集書記が常駐し、編集幹事もできるだけいるようにします。投稿予定の原稿についての相談、図や表の作成に際しての質問など、論文作成全般についての助言もいたします。若い方をはじめ、特に論文を書きなれていない方々、現在作成中の原稿をお持ちいただいで具体的な相談もお受けいたします。ぜひお気軽にお立ち寄りください。(日本第四紀学会編集委員会)

◆2011 年日本第四紀学会 学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞受賞者決定

日本第四紀学会では、学会賞、学術賞、功労賞、論文賞、奨励賞を設け、顕彰を行っております。2011 年度の学会賞、学術賞、論文賞、奨励賞の選考を行い、受賞者が決定されました。

学会賞は第四紀学の発展に貢献した顕著な業績を有し、また日本第四紀学会の活動に著しい貢献があった正会員に授与される、学会における最高の賞です。また学術賞は第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与されます。会員の皆様から推薦募集・立候補を行い、3 月 31 日をもって締め切り、学術賞に 3 名、学会賞に 1 名の候補者が推薦されました。両賞の候補者は、日本第四紀学会学会賞受賞者選考委員会(委員長：山崎晴雄会員、委員：菊地隆男、大場忠道、鈴木三男、松浦秀治各会員)によって最終候補者が推薦され、5 月 24 日に行われた評議員会において下記のとおり、受賞者が決定されました。

日本第四紀学会学会賞：成瀬 洋会員

受賞件名：「日本における第四紀学発展への顕著な貢献」

日本第四紀学会学術賞：前田保夫会員

受賞件名：「堆積物と地形から読み取る完新世の海水準変動に関する研究」

日本第四紀学会学術賞：寒川 旭会員

受賞件名：「地震考古学による新たな融合学問分野の創造と啓発活動」

論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を公表した会員である著者に授与されるもので、とくに奨励賞は若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的としています。両賞の最終候補者は、日本第四紀学会論文賞受賞者選考委員会(委員長：宮内崇裕会員、委員：河村善也、堤 隆、中里裕臣、米林 伸各会員)によって推薦され、5 月 24 日に行われた評議員会において下記のとおり、受賞者が決定されました。

日本第四紀学会論文賞：中沢祐一会員・出穂雅実会員・赤井文人氏

対象論文：論説 中沢祐一・出穂雅実・赤井文人(2009)「Between the two hearths: Site formation processes and spatial organization at the upper Paleolithic open-air site of Kamihoronai-Moi, Hokkaido (Japan)」(二つの炉址：北海道勇払郡厚真町上幌内モイ遺跡における遺跡形成過程と空間組織) 48 巻、2 号、85-96 頁

日本第四紀学会奨励賞：田村 亨会員

対象論文：論説 田村 亨 (2010)「鳥取砂丘の地中レーダ断面」49 巻、6 号、357-367 頁

各賞受賞者の表彰式は、8 月 27 日の日本第四紀学会大会総会後に行われます。受賞理由等の詳細は、総会において報告されると共に次号の第四紀通信にてお伝えします。また学会賞・学術賞受賞者による講演会を年度後半に計画中です。

◆ 2011 年日本第四紀学会 功労賞受賞者決定

幹事会は学会用に「はじめ人間ギャートルズ」の絵の作成、および学会活動のための絵の使用許可をいただき、長年にわたり第四紀学の普及・啓発と学会の活動に貢献するところが大きいことから、第四紀学について多大な貢献のあった者として、園山俊二氏（故人）を功労賞受賞候補者として評議員会に推薦しました。また、幹事会は、2010 年までの学会における評議員・幹事・編集委員・各種委員の年数を集計したポイントを参考に、70 歳以上の会員の中から学会活動に貢献された方を対象として、本会に関係した活動に貢献のあった者として 10 名の会員を評議員会に推薦しました。そして、5 月 24 日の第 3 回評議員会において以下の 11 名を功労賞受賞者として決定しました。

第四紀学について多大な貢献のあった者：園山俊二氏（故人）

本会に関係した活動に貢献のあった者：

石田志朗会員・菊地隆男会員・北川芳男会員・倉林三郎会員・小疇 尚会員
小池一之会員・永塚鎮男会員・成瀬 洋会員・堀口万吉会員・松田時彦会員

◆ 高校生対象サイエンス・イベントのお知らせ 日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス 「植物化石を調べることで地球環境の変化を実感し日本の森林の生い立ちを探る」

平成 23 年 12 月 3 日（土）・4 日（日）開催

場所：東京都武蔵村山市・千葉大学松戸キャンパス

講師：百原 新（千葉大学園芸学部）

対象・定員：高校生（20 名）

申込：日本学術振興会ホームページより 11 月 7 日締切 (<https://cp11.smp.ne.jp/gakujutu/seminar>)

問合せ先：百原 新 (arata@faculty.chiba-u.jp)

身近な地域にも見られる第四紀の地層と、そこに含まれる植物化石から、地球規模の気候変化の様子や森林の動きが明らかになることを、自分たちの手で調べ、体験していただきます。人間の一生より遥かに長い時間スケールの大きな環境変化が、ある場所の地層の中に凝縮されており、それを地学や生物学、地理学といった、様々な分野の知識を総合して取り組んで解明するという、フィールド研究の面白さを実感してもらいます。

1 日目は、東京都武蔵村山市の狭山丘陵の沢沿いで、第四紀前半の川や海で堆積した地層を観察し、植物の葉や貝の化石を採集しながら過去の環境の読み方や安全な野外調査の方法を学びます。2 日目は、千葉大学松戸キャンパスの生物実験室で、堆積物から植物化石を取り出して名前をつけた後、松戸キャンパスを回って生きた植物を見てもらい、化石が生きていた時の環境や森林の様子を復元してもらいます。

行事の詳細や注意事項は日本学術振興会の上記ホームページに掲載しています。参加には保護者の同意が必要で、上記ホームページからの申し込みとなります。高校生の皆様にぜひ参加を勧めて下さい。

◆ 研究集会「ヒトが住みはじめたころの関東地方－南関東地方最古の旧石器時代遺跡を求めて－」報告

平成 23 年 6 月 5 日、とうきゅう環境財団の研究助成による研究集会「ヒトが住みはじめたころの関東地方－南関東地方最古の旧石器時代遺跡を求めて－」が、相模原市博物館大会議室において、相模原市教育委員会との共催および日本第四紀学会ほかの後援で開催された。これは、初め平成 23 年 3 月 21 日に開催が予定されていたが、東日本大震災による計画停電の影響を受けて開催が中止されていたものである。会の趣旨は南関東地方における後期旧石器時代初頭を中心とする様相を考古学、自然科学から最新のデータをもとに改めて検証することを目的とした。従来、南関東地方の後期旧石器時代にかかわるこうした研究会、シンポジウムは考古学を中心とした出土石器、遺構を中心とした網羅的な内容が多かったが、今回の研究集会では、相模野台地、武蔵野台地の立川ローム層最下部の時期に絞込み、土層の詳細対比と環境

復元、土壌年代からの検討、遺跡形成の背景、最古期段階の石器の技術的検討等を行い、さらに遡る時代への展望にまで踏み込めたことが大きな成果と考える。(比田井民子)

◆猿橋賞募集

女性科学者に明るい未来をの会 会長 米沢富美子

女性科学者に明るい未来をの会は、「女性科学者のおかれている状況の暗さの中に、一条の光を投げ、いくらかでも彼女らを励まし、自然科学の発展に貢献できるように支援する(創立の趣旨より)」という願いをこめ、1980年に創立されました。当会は、これまで自然科学の分野で、優れた研究業績を収めている女性科学者に、毎年、賞(猿橋賞)を贈呈してまいりました。第32回猿橋賞の募集を開始します。募集要項をホームページ <http://www.saruhashi.net/> に掲載致しましたので、推薦書類はそこからダウンロードして下さい。募集要項の詳細もホームページを参照して下さい。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 FAX: 044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階

株式会社春恒社 学会事業部内 E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176